



長久手市文化の家
特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター
2021/3/31

長久手市文化の家アーカイブズ 2020年度報告書

目次

長久手市文化の家アーカイブズ 2020年度報告書

文化の家アーカイブズ事業について	3
1 アーカイブズ構築の意義	4
2 今年度の活動報告	7
2-1 アーカイブズ会議	
2-2 現状調査および整理作業	
2-3 公演データベースの入力作業	9
2-4 データベースに関わるリサーチ	
3 公演データベースの項目について	11
3-1 データベース項目について	
3-2 データベースの入力作業	13
3-3 今後の見通し	14
4 文化の家開館25周年記念誌について	15
4-1 記念誌作成の目的	
4-2 スケジュール案	
4-3 構成案	
4-4 その他	
5 今後の実施スケジュール	16
6 まとめ	17

文化の家アーカイブズについて

長久手市文化の家

長久手市文化の家は2018年に開館20周年を迎え、文化マスタープランの3回目の改訂を行った。「文化芸術マスタープラン」として新たに生まれ変わったマスタープランのなかに、重点施策の一つとして挙げられている「情報事業」があり、そのうちの一つとして「アーカイブズ作成」が位置付けられている。文化の家では体系的なアーカイブズ構築を目指し、アート・アーカイブズの専門団体であるアート&ソサイエティ研究センターと協力して、2019年度から本格的なアーカイブズの構築を開始した。

世界的なアーティストによる歴史に残る名演から、地元のアーティストによるオリジナリティの高い公演まで、文化の家が行ってきた事業の数々は長久手市の文化芸術の歴史でもある。文化の家アーカイブズは、公共事業として行ってきた文化の家の記録に、誰もがアクセスできるように体系的に整理・公開していくものである。そして、公開された記録が市民をはじめとする一般の利用に供されることで、文化芸術の新しいアイデアや事業の展開を促し、次世代の創造的な活動につなげていくことを目的としている。

1 | アーカイブズ構築の意義

特定非営利法人アート&ソサイエティ研究センター

2019年度末に現状調査に着手し、長久手市文化の家のアーカイブズ構築の取り組みを始めた。現状調査から今年度の調査を通じ、長期的かつ継続的な作業が必要であるアーカイブズ構築が、文化の家にとってどのような意義があるのか確認したい。

アーカイブズとは

アーカイブズとは、個人や組織の活動を通じて作成または収受した資料を整理し、その活動母体にとって重要な資料を将来のために保管することを目的として、体系的に管理・活用ができるようにした資料のまとまりのことを示す。アーカイブズ資料の最も重要な価値は、組織そのものの活動の経緯を知ることによって組織のアイデンティティを強めること、また、公的な組織であれば説明責任を果たすための証拠的価値を持つことが挙げられる。さらに、教育的な側面から見れば、研究者や市民といった組織外からも資料が利用されることで活動の背景について広範な目的に対応して伝えることが可能になる。

アーカイブズを構築するためには、まず資料の現状を把握する調査を実施し、資料の情報を目録(資料を一元的に管理し検索できるようにするために資料情報をリスト化してまとめたもの)に記録する。体系的に資料のまとまり全体の構造を明らかにすることで、目的の資料をすぐに見つけ出して円滑にアクセスできるようになる。例えば、周年記念を編纂する際に過去の公演記録をまとめる、公演活動に関する研究による利用、地域の市民の興味に応える利用などの活用が考えられる。このように、アーカイブズ資料を「長期的に保管」し、多様な「利活用」のニーズに応えることで、将来にわたって資料の利用価値を維持できる。その利用によって組織の認知と信頼性を高め、組織活動の持続にもつながることが期待できる。

劇場アーカイブズの事例

では、劇場の活動に関わるアーカイブズでは具体的にはどのような資料が保存されているのか。一般的にはアーカイブズ資料のほとんどは紙媒体の文書資料が多くを占める。しかし組織の活動にとって重要なものであれば、文書に限らず、写真、映像、データ、模型などの立体資料なども長期的な保存の対象になりうる。

早稲田大学演劇博物館館長の岡室美奈子は「演劇のアーカイブはドーナツ」という表現を用いる^{※1}。演劇そのものを残すことはできないため、その周辺の資料を綿密に収集する事になる。中心である演劇の資料は中空になり、周縁の資料が充実することでドーナツ状にアーカイブズが形成されることを示している。演劇の表現を将来にわたって伝えていくためには、文書や映像など単一の資料だけでは演劇の多面性を捉えることは難しく、演劇に関わる多様な資料を複合的に残すことが求められる。

演劇博物館では、戯曲や台本などの図書資料だけでなく、原稿、書簡などの文書資料、衣裳、小道具、模型など舞台上で使用された立体資料、写真や記録映像など多岐にわたる。このような資料はデジタル化、データベースへの入力が進められ、別項で詳述する文化の家の公演データベースを構築する上でも参照した。

また、1965年から活動しているニューヨークの「Roundabout Theatre Company」は非営利の劇団で、劇団内にアーカイブズを保有している(2015年に訪問)。劇団が所有する劇場内には脚

本、ステージの設計図、衣装など演劇博物館と同じように多様な資料を保管している。目録にはアーカイブズの専門用語に拘らず劇場で用いられる用語を採用し、劇場関係者にとって使いやすいアーカイブズを目指した活動を続けている^{※2}。

文化の家の活動記録

文化の家のアーカイブズはどのようなものになるか、現状調査によって明らかになった点をふまえてまとめていきたい。まず、1998年の開館から続く演劇やコンサートは主幹事業であり、その公演記録とそれに伴うアーカイブズ資料が文化の家の姿を伝える重要な資料として挙げられる。著名な建築事務所が設計し建築賞も多数受賞した建物そのものに関連する法人文書も、建設当初の設計図や建設計画の意思決定を記録した文書などが保管されている。

このような劇場という場の特性を伝えるアーカイブズ資料だけでなく、文化の家が市民に開かれた場として実施してきた多様なプログラムに関連する資料を残していくことは組織のアイデンティティを高めるために欠かすことができない。例えば「ながくてアートフェスティバル」や「おんぱく」といったプログラムは長久手市内全域にも展開され地域とのつながりを深める取り組みである。

また、若い音楽家や芸術家の活動を継続的に支援する「創造スタッフ」の取り組みは全国的にみてもユニークな試みであり、歴代の創造スタッフによる活動の蓄積は貴重な記録になる。同じように市内に所在する愛知県立芸術大学のデザイン科の学生を雇用し、広報物のデザイン制作に関しても連携をつくり、学生の実務的な経験を通じて支援する意義の高い取り組みも続けている。

文化の家のアーカイブズ構築の意義

アーカイブズ資料を活用する点では、文化の家の組織内部でも活かしていくことが重要となる。現状調査におけるヒアリングでは、プログラムごとに担当者が決まっており、資料の整理方法やデータの入力基準が統一されていないことが明らかになった。そのため、担当者本人に資料の所在やプログラムの詳細について、その都度確認が必要となるケースが少なくない点が課題として挙げられた。目録やデータベースの入力を組織内で標準化することで、必要な資料や情報にアクセスしやすくなり、業務の効率化にもつながる。また担当外のプログラムについても把握しやすくなり、組織全体で活動に対する理解や愛着が深まっていくことで、相互理解やアイデンティティを深めることが期待できる。

日本のアーカイブズ学の第一人者である安藤正人は、海外で使用されるコミュニティ・アーカイブズという表現をひいて「草の根文書館」という思想を提唱する。地域に根ざした活動こそが史料保存の原点であり「できるだけその記録が生まれた場所で保存し公開するのが一番いい」として「現地保存」の重要性を述べている^{※3}。また、支援の輪を広げるために一番大事なのは住民の支持であることも指摘する。近年は「市民アーキビスト^{※4}」という考え方も注目を集めており、アーカイブズ構築の段階から市民のサポートを得ることで、より地元に着目したアーカイブズとなりうる。

20年以上にわたって長久手市民(町民)に深いつながりをもった活動を続けていることで重要な記録が残されてきた。コミュニティ・アーカイブズの視点からも、アーカイブズ資料が地域にひらかれ活用されていくことで、新しい文化創造につながっていくことも期待できる。文化の家の25周年の節目に向けて、そしてさらに先の将来を見据え、アーカイブズ構築を今後も続けていくことは地域の貴重な文化資産となる。

※1: CINRA.NET「岡室美奈子に聞く、危機的状況の舞台芸術を再起動するための道標」(2021/3/25閲覧)

- ※2: (https://www.cinra.net/interview/202103-okamurominako_myhrt)
Roundabout Theatre Company Archive (2021/3/25閲覧)
(<https://archive.roundabouttheatre.org>)
- ※3: 安藤正人『草の根文書館の思想』(1998) 岩田書院
- ※4: 齋藤歩「アーカイブズのデジタル化がめざすもの」(2021/3/25閲覧)
(<https://www.ameet.jp/digital-archives/129>)

2 | 今年度の活動報告

2-1 | アーカイブズ会議

2020年度より、定期的にアーカイブズ会議を実施することとした。文化の家の担当員を主要なメンバーとして、必要に応じてアート&ソサイエティ研究センターのメンバーにもご参加いただいた。

	日時	議題
第1回	2020年 4月14日(火)	・前年度の報告書をもとに、現状課題を整理。 ・開館25周年誌について話題提起。
第2回	7月16日(木)	・アーカイブズ担当員の役割分担。 ・開館25周年誌の内容を検討。
第3回	8月20日(木)	・共有フォルダの問題を整理。 ・写真、動画等の整理方法を検討。
第4回	9月18日(金)	・アーカイブズ作業の全体の進捗確認。 ・アーカイブズコーナーについて検討。
第5回	11月20日(金)	・公演データベースの入力について ・文化の家資料の概要目録をもとに、資料の移動について検討。
第6回	12月9日(水)	・公演データベースの進捗報告と、入力システムの検討。 ・開館25周年誌の内容を検討。
第7回	2021年 1月15日(金)	(アート&ソサイエティ研究センターと共同) ・2020年度のアーカイブズ報告書について協議。
第8回	2月17日(水)	・創造スタッフ室の整理について検討。
第9回	3月12日(金)	(アート&ソサイエティ研究センターと共同) ・2020年度のアーカイブズ報告書について、構成を検討

2-2 | 現状調査および整理作業

※第1回～3回現状調査は2019年度に実施

第4回現状調査

日時:2020年4月8日(水)10:00～14:00

調査場所:文化の家B1 リターンチャンバー

調査担当者:山本、広中、水野

現状調査の内容を集約した概要目録の作成

- 2019年度に実施した3回の現状調査と、本年度に実施した現状調査の記録を集約し、現状調査時に手書きで記入した調査内容をエクセルに打ち直して作成した。
- 現状調査時に棚ごとに固有の棚番号を付与することで、どの棚にどのような資料が保管されているか、保管状況の把握が容易になった。
- 概要目録でデータを集計することで、下記のような改善点を確認できた。
 - カタログなどの発行物が約1625点と数が多く、保管分と配布用の在庫管理分で場所を分けるなどの改善が考えられる。
 - 映像資料は約1613点、写真点数は1026点あり公演記録として点数が多い。印画写真、ネガ、DVDなど媒体ごとに適切な保管方法を検討する必要がある。
 - 地下リターンチャンバーの収納スペースに資料と備品が混在しており、保管のためのゾーニングを検討する必要がある。

館内整理

- 概要目録をもとに、同一資料を一箇所に集約する作業を行った。
- 一部の文書箱が複数の備品庫に分かれて保管されていたため、B2Fの文書箱保管スペースに移動した。
- 特に資料が膨大かつ雑然と置かれていた2F創造スタッフ室とB1Fリターンチャンバーに関して、整理作業を行いスペースを確保した。

写真資料の現状調査

- 点在していた現像写真を一箇所に集め、ピントのボケた写真などを中心に処分した。
- 2019年度から、写真データを入れるフォルダの名称を統一した(年月日_公演名)。
- 写真データ保存のためのガイドラインを仮作成した。
- 「写真送付プロジェクト」と題して、これまでに文化の家と深いつながりのあったアーティストに公演記録写真などを送付した(2020年度は3件)。

映像データの現状調査、バックアップの作成

- 2004年～2021年の現存している映像データをCD-Rに移行した(目録未作成)。

共有ファイルサーバー内のデータ

- 長久手市では市共有のファイルサーバーを用いてデータを管理している。文化の家では係別にフォルダを分けて使っていたが、フォルダ分けのルールが決まっておらず、整理されていない状況だった。
- 事業係、管理係ともに、下表の9項目+その他のフォルダを作成し、内容ごとにフォルダを整理した。

事業係		管理係	
1	自主事業	1	施設利用関係
2	アートスクール	2	レストラン関係
3	市民関係事業	3	光熱水費関係
4	契約アーティスト	4	修繕関係
5	広報	5	チケット関係
6	フレンズ	6	フレンズ関係
7	評価・統計関係	7	施設管理委託関係
8	制作関係	8	舞台委託関係
9	事業庶務	9	消耗品及び印刷物

2-3 | 公演データベースの入力作業

2020年11月より、公演データベースの入力を開始した。今年度は2016～2020年度分を作成した。作成レコード数は下記のとおり。

- 2016年度:209件
- 2017年度:197件
- 2018年度:252件
- 2019年度:254件
- 2020年度:11件

2-4 | データベースに関わるリサーチ

E-PAD(緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業)

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を受けた舞台芸術の関連団体を支援することを目的として2020年10月より情報公開、公募が開始された。
- 舞台芸術の公演映像や関連情報を収集し、オンラインで「Japan Digital Theatre Archives 2020(ジャパン デジタルシアター アーカイブス 2020)」を公開する事業である。
- 動画の配信プラットフォームとしてさまざまな公演映像が集まることが見込まれ、事業に動画を

提供することは認知を広げるきっかけにもなることが期待された。

- 文化の家の過去の公演の記録映像をオンライン公開する「公演収録・既存の公演映像の収集・保存及び配信可能化事業」に申請を試みたが、条件など折り合わず見送った。
- ウェブサイトは2021年3月に公開され、多方面のメディアで取り上げられ大きな注目を集め、舞台芸術のアーカイブを進める動きとして議論の活性化につながっている。
- データベースの項目、デジタル化の品質、権利処理の方法などアーカイブズ構築のために必要な標準化を進めており、動向は引き続き注視していきたい。

オンラインで公開可能なデータベース

- ウェブサイトの仕様が変わり長久手市のウェブサイトには文化の家のコンテンツが組み込まれる方針となった。
- ウェブサイトのページづくりに制約があり、新しいコンテンツを追加し辛い状況になっている。
- 将来的にデータベースを公開することを見据え、ウェブサイトとは別サーバを設置するなど公開方法を検討する必要がある。
- 近年のデジタルアーカイブの動向ではオープンソースで開発されたCMS(Content Management System:コンテンツ管理システム)を使用することが多く、前例として調査した。
CMS=ウェブコンテンツを構成するテキストや画像などのデジタルコンテンツを統合・体系的に管理し、配信など必要な処理を行うシステム
(2020/9/11筑波大学WS「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」より引用)
- 主要なCMSについて導入事例を含めて下記にまとめた。

名称	概要・特徴	導入例
WordPress	採用しているサイトが多く、プラグインなどが豊富で構築しやすい。	資料検索サイト302 https://www.art-society.com/search_302
Drupal	大学などで採用されているが、構築には専門知識が求められる。	京都大学・慶應義塾大学・琉球大学など
Omeka	デジタルコレクションを公開するのに向いている。	東京大学 https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal
Archives Space	アーカイブズ公開のために開発されたシステム。	大阪中之島美術館 https://nakka-art.jp
Collective Access	アメリカの美術館で主流に使用されているシステム。	Roundabout Theatre Company https://archive.roundabouttheatre.org

3 | 公演データベースの項目について

3-1 | データベース項目について

データベースの項目の国際標準や国内外の主要機関で使用されている項目の先行事例を参照した。それによってデータベース作成をスムーズに着手することができた。データベースの項目は、他の機関とある程度共通した項目にすることでデータベースの情報共有が容易になり、他の機関からのアクセスもしやすくなる。

また、国立国会図書館が運営している「ジャパン・サーチ」が2020年に開設されたことが注目を集めている。ジャパン・サーチは、日本国内のさまざまなデータベースを分野横断して検索できるポータルサイトである。このような分野横断型の検索サイトはヨーロッパの「Europeana(ヨーロッパアナ)」や、アメリカの「Digital Public Library of America」など欧米ではすでに定着し広く利用されており、ジャパン・サーチの対象データベースも拡充していくことが見込まれる。将来的にこのような分野横断型検索との連携を取りやすくなることも視野に入れて、標準項目を採用しておくことは有効である。

一方で、このような標準項目では取得できないような情報については独自項目を採用するようにして、できる限り使いやすいうように柔軟に項目を設定していった。

まず、国内では最も充実した演劇資料を収集している早稲田大学坪内博士記念演劇博物館を先行事例として参考した。同館では「演劇情報総合データベース」で公開されている「演劇上演記録データベース」は公演に関わる項目を網羅しており、このデータベースの項目を中心に使用できる項目を採用した。また、海外での先行事例として韓国国立劇場アーカイブが使用する項目を参照した。特にデータベースのなかで公演に関わる関連資料(写真、映像、チラシなど)を公演情報に紐付ける項目の作り方などを中心に項目として採用した。

公演に関わる情報を把握しやすいように、現状では個別のエクセルデータで管理されていた情報を統合するようにデータベース項目を設定していった。現在作成中のデータベース項目ごとに解説を示す。

1_管理情報		データの管理のために入力する情報
1-1	No.	データ管理のため、入力順の通し番号を入力。
1-2	上演ID	登録情報ごとの固有IDを付与する。 (※現状では"No. + 上演日"の値を入力)
1-3	複数公演ID	複数公演がある場合など、上演IDに紐づく登録情報に固有IDを付与する。(※現状では"上演ID + 複数公演No."の値を入力)
1-4	複数公演No.	複数公演がある場合、メイン公演を1として、入力順の通し番号を入力。
1-5	上演年度	上演された年度を西暦4桁で入力。
1-6	事業区分	ホール、企画、アウトリーチ等の区分を入力。
1-7	主催区分	主催者の区分を入力。

1-8	事業種別	文化の家固有の項目を追加
1-9	ジャンル	公演のジャンルを入力。
1-10	子ども向け	子ども向け公演の場合に入力。
1-11	行政評価種別	行政評価に係る事業集計のための項目。
1-12	担当者	事業担当者を入力。
2_公演情報		公演に関する情報
2-1	上演主体	主催団体を入力、自主事業の場合は文化の家。
2-2	公演名	公開された正式の事業名、公演名を入力。
2-3	初日	公演初日を入力、広報時の表記を転記。
2-4	初日(西暦)	公演初日を西暦に変換し、yyyy/mm/ddの書式で入力。
2-5	開演時間	開演時間を入力。24時間表示。
2-6	終日	公演日に期間がある場合は最終日、1日のみのイベントの場合は初日と同じ日付を入力、広報時の表記を転記。
2-7	終日(西暦)	公演終日を西暦に変換し、yyyy/mm/ddの書式で入力。
2-8	場所	イベントの開催場所(会場名、ホール名)を入力。
2-9	演目・曲目	上演された演目・曲目を入力。
2-10	スタッフ	脚本、演出などスタッフ名を列記。 (脚本、監督など主要なスタッフは個別の項目を検討)
2-11	出演	出演者を列記。 (出演者の役割の表記方法を検討)
2-12	公演回数	複数公演がある場合は回数を入力。
2-13	備考	公演情報に関する特記事項を入力。
3_入場者数		過去に別データで管理していた情報を統合
3-1	入場者数	入場者数を入力。
3-2	総入場者数	入場者の合計
3-3	席設定	席設定数を入力。
3-4	入場率	入場率を入力。
3-5	備考	入場者数に関する備考を入力。
4_収支		過去に別データで管理していた情報を統合
4-1	チケット料金	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-2	委託費	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-3	総支出	年報に記載している情報を集計用に入力。

4-4	収入	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-5	補助金	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-6	補助金内訳	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-7	収支率	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-8	有料公演	年報に記載している情報を集計用に入力。
4-9	備考	収支に関する備考を入力。
5_関連資料		公演に関連する資料がある場合、点数を入力
5-1	公演プログラム	公演に関連して発行したプログラムの有無。
5-2	印刷物	プログラム以外の関連印刷物。
5-3	写真	公演の写真記録。
5-4	映像	公演の映像記録。
5-5	台本	公演の台本。
5-6	美術	公演の美術資料。
5-7	資料備考	関連資料に関する備考を入力。
6_アンケート		公演アンケートに関する情報を入力
6-1	アンケート数	回収した公演アンケートの数。
6-2	アンケート回収率	公演アンケートの回収率。
6-3	集計データ有無	アンケートの集計データが作成されているかどうかを入力。
7_作業記録		作業記録として入力
7-1	入力年月日	最初にデータを作成した年月日を入力。
7-2	入力者	最初にデータを入力した作業者名を入力。
7-3	最終更新日	データを更新するたびに公演年月日を入力。
7-4	更新者	データを更新するたびに作業者名を入力。
6-5	作業メモ	入力作業についての引き継ぎ事項や確認が必要な点など記録。

3-2 | データベースの入力作業

○作業していてやりにくかったこと

- 事業種別が年度によって同一の事業でも変更になっていること(現状では事業種別の入力項目を増やして年報に記載の通りに入力)
- 表が横に長いこと。遡及入力分のレコードは、年報PDFをコピー&ペーストして入力していたた

め、パソコン画面の左半分に年報データ、右半分に公演データベースのExcelとなり、作業スペースが狭かった。現状でも作業できるが、モニターの大きなパソコンが使えたら、作業効率と正確さが上がるかもしれない。

○1項目あたりの作業時間、1年度分の作業時間

- 参考として、2016年と2017年の作業時間について報告する。
 - 2016年度分 209項目(作業日数:6日間)
 - 2017年度分 197項目(作業日数:4日間)
- 通常公演の入力はおおよそ1レコードあたり5分程度。

○そのほか、作業していて気づいたことなど

- 現在は公演内容の入力時に「演目・曲目」「スタッフ」「出演」が分かれた状態で入力している。東京文化会館のように、一つの公演で複数の演目・曲目があった際にスタッフ、出演者と紐づいた状態で保存されているとおもしろいと思う。
- 現在3年度分ができているため、今後のアーカイブとして必要な情報と不要な情報を一旦判断し直して、残りの年度分を作っていくのが良いと思う。複数回行った同じ内容のワークショップを、回ごとに1レコードずつ作成しているものもあり、必要性について要検討。

3-3 | 今後の見通し

○データベース項目の改善

- 公演ごとの固有IDの付与方法を検討する。
- 作業して挙げた改善案に基づき、「演目・曲目」「スタッフ」「出演」の項目の入力方法を検討する。
- 出演者の演目での役割を表記する方法を検討する。

○公演の関連資料との紐付け方法

- 公演に関連する、写真、映像、台本、美術資料など、デジタルや原本で保管されている資料とデータベースの情報を紐付ける方法を検討する。

○データベースの公開システムの検討

- 現状のウェブサイト内にデータベースを組み込むことが難しいため、オープンソースCMSを導入するなど公開システムを検討する。
- 公開システムは維持費を抑える、メンテナンスがしやすい、など持続してデータベースを提供できることが求められる。

○データベース構築方法の検討

- 前項で検討するシステムの選定と合わせ、データベースを実装するためのエンジニアなど発注先を検討する。

4 | 文化の家開館25周年記念誌について

4-1 | 記念誌作成の目的

1998年(平成10年)7月に開館した長久手市文化の家は、2023年(令和5年)に開館25周年を迎える。文化芸術マスタープランを基に行ってきた自主事業や貸し館事業には、多くの市民やアーティストが関わっており、これらの文化芸術活動は長久手市の文化遺産ともいえる貴重な痕跡である。すでに始まっている文化の家アーカイブズと連動して、文化の家に保管されている多くの資料を記録誌としてまとめ、広く市民へ発信することで文化の家の理念や価値のアピールへとつなげる。記念誌の作成を通じて、「文化のまち」としてのアイデンティティの醸成へつなげるとともに、文化の家スタッフへの理念継承や参画意識の向上も目的としている。

4-2 | スケジュール案

- 2021年度
 - 実行委員会の立ち上げ(6月に第1回会議の開催を予定)
 - 構成の検討
 - 資料収集・調査
- 2022年度
 - デザインに着手
 - 有識者コメント、取材などのコンテンツ収集
- 2023年度
 - 7月に完成予定

4-3 | 構成案

- あいさつ
- 有識者からのコメント
- 建築グラビア
- 文化の家の沿革
- 自主事業のあゆみ
- アーティストからのコメント
- 職員、スタッフ、創造スタッフ、フレンズの一覧
- 企画、運営委員会

4-4 | その他

- 作成部数:300部程度を予定
- データ版(概要版)の作成
- 概要の英語版の作成を検討
- クラウドファンディングを検討

5 | 今後の実施スケジュール

今後想定されるアーカイブズ構築の流れを下記の表にまとめた。実施する作業は並行して進められており、それぞれの業務の着手時期と完了見込みは別添の進行表にまとめた。

No	項目	内容	時期	実施状況
1	2019年度 現状調査の実施			
1-1	現状調査	長久手市文化の家での保管状況を調査し、保管方針について確認。 ※新型コロナウイルスの影響により2021年度まで延長	2020年2月～	完了
2	2020年度 データベース構築作業(コロナの影響により現地での資料調査は延期)			
2-1	データベース項目検討	公演データベースの項目を検討し、実際に入力作業に着手する。	2020年5～6月	完了
2-2	データベース入力	公演データベースの入力を進める。	2020年6月～ ※以降、継続	実施中
3	2021年度 資料原本の整理、目録作成			
3-1	資料収集基準の設定	対象資料の優先順位の決定し、選別基準の設定を打ち合わせ、まとめる。	2021年度前期	-
3-2	資料の整理	現状調査に基づき、種別ごとに資料の保管場所を定める。	2020年度～ ※以降、継続	実施中
3-3	資料目録の作成	アーカイブズ記述の国際標準(ISAD(G))に基づく資料目録を作成し、原本資料の情報を入力。	2021年度～ ※以降、継続	-
3-4	資料の収納	資料の媒体、サイズごとに収納する容器や手段を決定しラベル作成。保管庫内に整理する。	2021年度後期～	-
4	2022年度 デジタル化と目録との紐付け、公開に向けた準備			
4-1	デジタル化	一部資料は外部業者に外注してデジタル化。デジタルデータの保管方法を定める。	2022年度	-
4-2	データベース構築	エクセルで作成したデータベースから、ウェブ上でも閲覧できるシステムを構築する。	2022年度	-
4-3	資料公開への準備	アーカイブスペースの設置準備、レイアウトや什器などを設計。	2022年度	-

6 | まとめ

6-1 | 文化の家からの総括

2020年度は定期的なアーカイブズ会議を開催したことにより、職員内にアーカイブズに取り組む意識を定着させることができた。アーカイブズ構築は文化の家全体に関わるため、事業係と管理係の枠を超えた文化の家全体の連携にもつながっている。これまでは係間での分業意識があったが、アーカイブズ構築への共同作業を通じて、文化の家職員間での良いコミュニケーションの機会にもなったことは新たな発見であった。

また、文化の家アーカイブズでは長期的な資料の利活用を視野に入れているため、一時的な清掃活動とは異なり、継続的にアーカイブズの構築に取り組むことができている。今後、新しく来た職員もアーカイブズ構築に関わることによって、これまで蓄積されてきた文化の家の記録に触れるきっかけともなるだろう。文化の家が存続する限り、新しい記録は生み出されていくため、これからもアーカイブズへの取り組みを続けていきたい。

6-2 | アート&ソサイエティ研究センターからの総括

アーカイブズ構築のプロセスとしては、2019年度から現状調査を実施したことによって資料の管理における課題が明らかになり、具体的な資料整理に着手することができたことが大きな成果である。資料全体の特徴が明らかになることでアーカイブズ構築の方針を検討できるようになり、作業の優先度や長期的なプランをつくることができる。今年度では劇場アーカイブズにおいても記録としての写真や映像の資料価値の高く、優先して整理を始めることができた。

今後は、アーカイブズの体系化のために必須である資料目録の作成を進めることになる。多くの図書館や美術館でも採用されているアーカイブズ記述の国際標準「ISAD(G)(General International Standard Archival Description: 記録史料記述の一般原則)」に基づき階層構造による資料群の体系化を図る。体系化のためには、まず資料全体の構造を把握して、どのような業務フローによって資料が作成されるか業務分析を行っていくことが必要になる。その分析には、今年度実施された共有ファイルサーバの整理によるフォルダ分類を参照できる可能性があり、今年度の取り組みを活かしながら次に繋げていきたい。



長久手市文化の家アーカイブズ 2020年度報告書

期間:2020(令和2)年4月～2021(令和3)年3月

場所:長久手市文化の家

アート&ソサイエティ研究センター事務所(東京都千代田区)

担当員: 長久手市文化の家

生田創、山本宗由、黒野雅直、松浦良平、内田真由美

調査員: 特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター

P+ARCHIVE事業部 工藤安代、井出竜郎